

## NOTICES \*

JPO and NCIPi are not responsible for any damages caused by the use of this translation.

1. This document has been translated by computer. So the translation may not reflect the original precisely.
2. \*\*\*\* shows the word which can not be translated.
3. In the drawings, any words are not translated.

---

CLAIMS

---

[Utility model registration claim]

[Claim 1] Opposite formation of the restoration enclosure section of the air which is open for free passage at least between airtight outside bags and PE liners which consist of plastic film at the pars-basilaris-ossis-occipitalis side of both bags is carried out. While constituting the inside and outside of the restoration enclosure section of this air possible [ a free passage ] through the flat check valve for restoration enclosure of the air which consists of plastic film While forming the stowage of the goods equipped with insertion-and-detachment opening with the above-mentioned PE liner, constituting the body for shipment of a buffer nature package bag, and \*\*\*\*(ing) a good note nature sheet on the front face of this body and preparing the piece of \*\*\*\* of this insertion-and-detachment opening in the peristome of the above-mentioned insertion-and-detachment opening In the buffer nature package bag for shipment which prepared and constituted the adhesives layer in the internal surface of this piece of \*\*\*\* The buffer nature package bag for shipment characterized by constituting so that at least one air emission section is established on this body for shipment of a buffer nature package bag, the repetitive loop of the adhesive tape may be carried out, it may be stuck on this air emission section possible [ attachment and exfoliation ] and this air emission section may be blockaded, enabling free closing motion.

[Claim 2] The buffer nature package bag for shipment according to claim 1 which formed the air emission section by the stoma.

[Claim 3] The buffer nature package bag for shipment according to claim 1 which formed the air emission section by the slit.

[Claim 4] The buffer nature package bag for shipment given in any of claims 1, 2, or 3 which stuck mold-releasing paper on the front face of an adhesives layer established in the internal surface of the piece of \*\*\*\* of insertion-and-detachment opening they are.

[Claim 5] The buffer nature package bag for shipment given in any of claims 1, 2, 3, or 4 they are which maintained proper spacing for the restoration enclosure section of both the air formed between the outside bag and the PE liner, and left the circulation way of air to both sides, and carried out heating adhesion to \*\*\*\* parallel by two or more places with the peristome of insertion-and-detachment opening at the line at each \*\*.

---

[Translation done.]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3009233号

(45) 発行日 平成7年(1995)4月4日

(24) 登録日 平成7年(1995)1月18日

(51) Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 27/00	B	9146-3E		
30/22	F			
30/24	T			
33/20				

B 6 5 D 81/ 10 B  
評価書の請求 未請求 請求項の数5 FD (全 10 頁) 続き有

(21) 出願番号 実願平6-12768

(22) 出願日 平成6年(1994)9月20日

(73) 実用新案権者 390004293

化研工業株式会社

東京都港区芝大門1丁目10番1号

(72) 考案者 田中 幹雄

奈良県天理市榛本町386-3

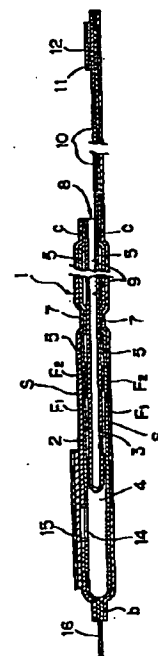
(74) 代理人 弁理士 岩永 方之

(54) 【考案の名称】 送品用緩衝性包装袋

(57) 【要約】 (修正有)

【目的】 収納物が押脱口から逸脱するのを防止し、直接送り届けることができ、包装袋内の封入空気を容易に放出でき、包装袋を反復して使用できる経済的な送品用緩衝性包装袋を提供する。

【構成】 プラスチックフィルムから成る気密な外袋2と内袋3との間に、連通する空気の充填封入部5、5を形成し、内外をプラスチックフィルムから成る空気の充填封入用の扁平な逆止弁16を介して連通可能に構成すると共に、内袋3により押脱口8を備えた物品の収納部9を形成して送品用緩衝性包装袋本体1を構成し、表面に可筆記性シートSを層設し、押脱口8の口縁に覆閉片10を設けると共に、覆閉片10の内表面に接着剤層11を設けた送品用緩衝性包装袋において、少なくとも一つの空気放出部14を開設し、空気放出部14に粘着テープ15を繰返して貼着、剥離可能に貼着して空気放出部14を開閉自在に閉塞するように構成されている。



1

## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 プラスチックフィルムから成る気密な外袋と内袋との間に、少なくとも両袋の底部側において連通する空气の充填封入部を対向形成し、この空气の充填封入部の内外をプラスチックフィルムから成る空气の充填封入用の扁平な逆止弁を介して連通可能に構成すると共に、上記内袋により挿脱口を備えた物品の収納部を形成して送品用緩衝性包装袋本体を構成し、該本体の表面に可筆記性シートを層設し、且つ上記挿脱口の口縁に該挿脱口の覆閉片を設けると共に、該覆閉片の内表面に接着剤層を設けて構成した送品用緩衝性包装袋において、この送品用緩衝性包装袋本体に少なくとも一つの空气放出部を開設し、この空气放出部に粘着テープを反復繰返して貼着、剥離可能に貼着して該空气放出部を開閉自在に閉塞するように構成したことを特徴とする送品用緩衝性包装袋。

【請求項2】 空气放出部を小孔により形成した請求項1に記載の送品用緩衝性包装袋。

【請求項3】 空气放出部をスリットにより形成した請求項1に記載の送品用緩衝性包装袋。

【請求項4】 挿脱口の覆閉片の内表面に設けた接着剤層の表面に離形紙を貼着した請求項1、2または3のいずれかに記載の送品用緩衝性包装袋。

【請求項5】 外袋と内袋との間に形成した両空气の充填封入部を適宜の間隔を保ち且つ両側に空气の流通路を残して、挿脱口の口縁と略々平行に複数個所で各別に線状に加熱接着した請求項1、2、3または4のいずれかに記載の送品用緩衝性包装袋。

【図面の簡単な説明】

2

\*【図1】 本考案の実施例を示す1部を剥離した平面図である。

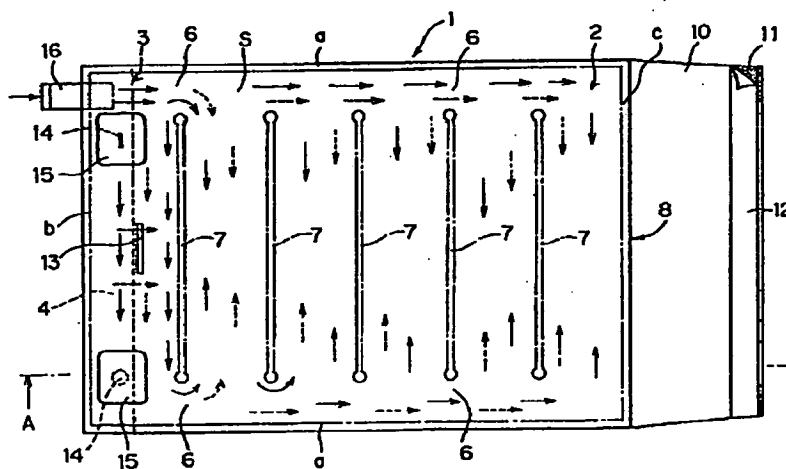
【図2】 図1のA-A線に沿う1部省略拡大断面図である。

【図3】 物品の緩衝包装状態を示す説明図である。

【符号の説明】

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 1              | 包装袋本体          |
| S              | 可筆記性シート        |
| F <sub>1</sub> | 熱可塑性プラスチックフィルム |
| 2              | 外袋             |
| F <sub>2</sub> | 熱可塑性プラスチックフィルム |
| 3              | 内袋             |
| 4              | 連通部            |
| 5              | 空气の充填封入部       |
| 6              | 空气の流通路         |
| 7              | 線状の加熱接着部       |
| 8              | 挿脱口            |
| M              | 物品             |
| 9              | 収納部            |
| 10             | 覆閉片            |
| 11             | 接着剤層           |
| 12             | 離形紙            |
| 13             | 加熱接着部          |
| 14             | 空气放出部          |
| 15             | 粘着テープ          |
| 16             | 逆止弁            |
| a・a            | 両側縁            |
| b              | 下側周縁           |
| c・c            | 両上側周縁          |

【図1】



(51)Int.Cl.<sup>9</sup>  
B 6 5 D

片内整理番号

### 技術表示箇所

## 【考案の詳細な説明】

【0001】

## 【産業上の利用分野】

本考案は、収納した物品を損傷、損壊することなく、例えば、郵便小包、宅急便として簡便且つ安全に移送配達することができる送品用緩衝性包装袋の改良に関する。

【0002】

## 【従来技術】

従来、この種の緩衝性包装袋としては、例えば、逆止弁を備えた空気の給排口部と、該給排口部と連通させた状態で対設形成した空気の充填収容部と、該両空気の充填収容部の間に形成した挿脱口を有する物品の収納部とから成るプラスチックフィルム製の緩衝用包装袋等が知られており、また、上記の緩衝用包装袋において、該両空気の充填収容部を一個所または複数個所で線状に、或はスポット状に接着して構成した緩衝用包装袋も知られている。

【0003】

さらに、本考案の出願人が先に出願した送品用緩衝性包装袋、即ち、外袋と内袋との間に両袋の底部側のみにおいて連通する空気の充填封入部を対向形成し、該充填封入部の内外を逆止弁を介してのみ連通可能に構成すると共に、上記内袋により挿脱口を備えた物品の収納部を形成して成る送品用緩衝性包装袋であって、クラフト紙等の強韌紙の内面にプラスチック層を形成した気密性のシートにより外袋を形成すると共に、気密性のプラスチックフィルムにより内袋を形成し、且つ挿脱口の口縁に該挿脱口の覆閉片を延設すると共に、該覆閉片の内表面に接着剤層を設けて構成したことを特徴とする送品用緩衝性包装袋（実公平5-44289号）も知られている。

【0004】

## 【考案が解決しようとする課題】

然るに、上記従来例中の前二者の場合は、緩衝用包装袋の全体がプラスチックフィルムで構成されているので、その表面にアドレス等を表記した場合に、その表示内容が雨水等により消失し易い問題があると共に、耐傷損性が弱いため外部

からの傷損力、特に突刺し傷損力を受けると、忽ち裂損して封入空気が洩出し、所期の緩衝性を失うといった問題があると共に、物品の収納部の挿脱口は開放されたまゝの状態であるから、取扱い中に収納物品が該挿脱口から不測に逸脱するおそれがあるといった問題がある。

#### 【0005】

さらに、上記実公平5-44289号公報に開示されている送品用緩衝性包装袋の場合は、その独自の構成により、上記の問題は解決できるが、上記三者のいづれの場合も、使用後における包装袋内の空気を放出するためには、逆止弁にストローなどの細管を挿入して包装袋の内外を連通させ、その状態で包装袋を加圧して空気を放出しているため、細管からの空気の放出効率が悪いことは勿論のこと、細管の挿入時に薄いプラスチックフィルムから成る逆止弁を損傷して逆止弁としての機能を失ない、包装袋全体を使い捨てせざるを得ないといった極めて不経済な問題がある。

#### 【0006】

また、上記の細管が手許にない場合は、空気の放出が殆ど不可能若しくは著しく困難であるため使い捨てするか、或は空気により膨満したまゝの嵩高な状態で持ち運んだり、輸送したり、保管したりする必要があり、その不便性は計り知れない程に大きい問題がある。

#### 【0007】

本考案は、上記の問題を解決することを課題として開発されたもので、アドレス等の表記を筆記具の種類に関係なく確実に行い得ると共に、収納物品が挿脱口から逸脱するのを確実に防止し得て、物品を郵便小包、宅急便等として直接に送り届けることができ、且つ包装袋内に封入した空気の放出のうえで種々の問題があるプラスチックフィルム製の扁平な逆止弁を使用していても、封入空気を簡便容易に放出でき、包装袋を反復継続して使用できる至便性を備えた経済的な送品用緩衝性包装袋を提供することを目的とする。

#### 【0008】

##### 【課題を解決するための手段】

上記の課題を解決し、その目的を達成する手段として、本考案は、プラスチック

クフィルムから成る気密な外袋と内袋との間に、少なくとも両袋の底部側において連通する空気の充填封入部を対向形成し、この空気の充填封入部の内外をプラスチックフィルムから成る空気の充填封入用の扁平な逆止弁を介して連通可能に構成すると共に、上記内袋により挿脱口を備えた物品の収納部を形成して送品用緩衝性包装袋本体を構成し、該本体の表面に可筆記性シートを層設し、且つ上記挿脱口の口縁に該挿脱口の覆閉片を設けると共に、該覆閉片の内表面に接着剤層を設けて構成した送品用緩衝性包装袋において、この送品用緩衝性包装袋本体に少なくとも一つの空気放出部を開設し、この空気放出部に粘着テープを反復繰返して貼着、剥離可能に貼着して該空気放出部を開閉自在に閉塞するように構成したことを特徴とする送品用緩衝性包装袋を提供するものである。

#### 【0009】

また、本考案は、上記のように構成した送品用緩衝性包装袋において、その空気放出部を小孔またはスリットにより形成した送品用緩衝性包装袋、及びその挿脱口の覆閉片の内表面に設けた接着剤層の表面に離形紙を貼着した送品用緩衝性包装袋、並びに外袋と内袋との間に形成した両空気の充填封入部を適宜の間隔を保ち且つ両側に空気の流通路を残して、挿脱口の口縁と略々平行に複数個所で各別に線状に加熱接着した送品用緩衝性包装袋を夫々提供するものである。

#### 【0010】

##### 【作用】

本考案に係る送品用緩衝性包装袋は、上記のように構成されているので、包装袋内に充填封入した空気を抜くときは、粘着テープを剥離して空気放出部を開口し、包装袋を加圧すると、空気は該空気放出部から円滑容易に放出され、包装袋の嵩は著しくスピーディーに縮小される。また、空気放出後は、剥離した粘着テープを空気放出部に再度貼着して空気放出部を閉塞することにより、包装袋を反復繰返して継続使用できる作用がある。

#### 【0011】

また、包装袋の表面は可筆記性シートで構成されているので、筆記具を用いて包装物の差出人、受取人の住所、氏名、その他の必要事項を包装袋の表面に確実に記入できる作用がある。

## 【0012】

さらに、所要の物品を収納部に収納した後に、挿脱口に設けた覆閉片を内側に折曲げて外袋に当接すれば、該覆閉片の内表面に設けた接着剤層により貼着され、挿脱口を確実に覆閉して収納物品の逸出を防止する作用がある。

## 【0013】

## 【実施例】

以下に、本考案の実施例を添付図面に基づいて説明すれば、1は包装袋本体であって、この包装袋本体1は、この実施例では、表面に不透明な熱可塑性プラスチックシートから成る強靱な可筆記性シートSを層設した熱可塑性プラスチックフィルムF<sub>1</sub>により形成した長形状の外袋2と、該外袋2内に配設した熱可塑性プラスチックフィルムF<sub>2</sub>により形成した、上記外袋2と同巾で且つ長さが若干短い長形状の内袋3とから成る二重袋で構成されている。

## 【0014】

また、上記包装袋本体1は、その両側縁a、a及び下側周縁b並びに両上側周縁c、cを加熱接着して上記外袋2と内袋3から成る二重袋を形成したものであって、該外袋2と内袋3の間に、該両袋2、3の底部側の連通部4のみにおいて連通する空気の充填封入部5、5を対向形成すると共に、該各充填封入部5、5を均等な間隔を保ち、且つ両側に空気の流通路6、6を残して複数個所で各別に線状に加熱接着7…7し、さらに、上記内袋3の開口部から成る挿脱口8を有する物品Mの収納部9を設けて構成されており、このようにして構成された包装袋本体1は、後述するように送品用緩衝性包装袋として使用されるものである。

## 【0015】

また、この包装袋本体1は、上記挿脱口8の片側の口縁に該挿脱口8を十分に覆閉できる程度の長い目の覆閉片10を備えるとともに、該覆閉片10の内表面には、接着剤層11及び該接着剤層11の表面に貼付した離形紙12が設けられており、且つ内袋3の底部の略中間部において該内袋3と外袋2とを部分的に加熱接着13して内袋3の底部の捲れ上りを防止し、該部の位置規整が計られている。

なお、この実施例では、挿脱口8の口縁から内袋3、外袋2及び可筆記性シー



トSを夫々延設し、これらの三部材の積層片により覆閉片10を形成した事例を示したが、この覆閉片10は、外袋2のみ或は内袋3のみ若しくは可筆記性シートSを備えた外袋2で形成してもよく、更には別個に形成した覆閉片を口縁に接着してもよいものであって、その形成手段は限定されるものではない。

#### 【0016】

さらに、上記包装袋本体1の外袋2には、底部側の連通部4に位置して空気放出用の小孔またはスリットから成る空気放出部14が、この実施例では、左右両側の2個所に開設してあり、これらの各空気放出部14の開設部にはガムテープ等の粘着テープ15が反復して貼着、剥離可能に貼着されて、該空気放出部14を開閉自在に覆閉してある。

#### 【0017】

また、符号16は包装袋本体1の製袋時に、底部側の連通部4において外袋2に装設したプラスチックフィルムから成る周知の扁平な逆止弁即ち、例えば、実公平1-35019号公報、実公平3-14612号公報、実公平3-14614号公報等の開示されている逆止弁であって、上記包装袋本体1内に、図1に矢印で示すように、この逆止弁16のみを介して気体が充填封入されるように配置構成されている。

#### 【0018】

次に、上記のように構成した実施例の送品用緩衝性包装袋の使用状態を作用、効果と共に説明すれば、その物品の挿脱口8から収納部9内に要緩衝物品Mを挿入し、十分に長い覆閉片10を内側に折り曲げ、その接着剤層11により包装袋本体1の表面に接着して挿脱口8を覆閉した後、逆止弁16から空気を供給すると、供給された空気は図1に矢印で示すように、連通部4及び各流通路6、6を経て空気の両充填封入部5、5内に導入され、図4に示すように両封入部5、5を膨満して収納部9内の物品Mを弾力的に保持する。

#### 【0019】

このとき、両空気の充填封入部5、5は挿脱口8の辺縁に沿う方向に複数個所で加熱接着7...7されているので、包装袋本体1の表面が強靱な可筆記性シートSで構成されていることと相俟って、不必要に嵩高く膨満することがなく、規制

された形状で取扱い易く物品を緩衝保護し、且つ物品Aの挿脱口8は接着剤層11を備えた覆閉片10により簡便且つ確実に覆閉できるので、郵送等の取扱中に収納物品Mが挿脱口8から不測に逸出するのを確実に防止できる。

#### 【0020】

また、包装袋本体1の表面は上記のように強靱な可筆記性シートSで構成されているため、筆記具の種類に関係なく、アドレス、氏名等の記入が可能であって、宅急便用、その他の郵送用の緩衝性包装袋として最適である。

#### 【0021】

さらに、この包装袋が送品用緩衝性包装袋としての役目を果たした後は、包装袋本体1に貼着した粘着テープ15を剥離して空気放出部14を開口し、包装袋本体1を手で加圧すると、封入空気は円滑容易に空気放出部14を経て外部に放出されるので、収納部9から物品Mを取出すことにより包装袋本体1は嵩低く縮小される。したがって取扱いが容易であると共に、剥離した粘着テープ15は反復繰返して使用が可能であるから、再度空気放出部14の個所に貼着して覆閉することにより、繰返して使用が可能であり、且つ従来のストローなどの細管を利用した逆止弁からの気体放出手段に較べて円滑、迅速に気体の放出が可能であることは勿論のこと、逆止弁を損傷するおそれも格段に少ないので、この種の送品用緩衝性包装袋としての耐用命数を著しく向上できる利点がある。

#### 【0022】

以上、本考案の主要な実施例について説明したが、本考案は、これらの実施例に限定されるものではなく、考案の目的を達成でき且つ考案の要旨を逸脱しない範囲内で種々の設計変更が可能であることは当然である。

#### 【0023】

##### 【考案の効果】

本考案は、前記の構成に係り、前記のようにして使用するものであるから、次のような優れた諸効果を奏し得るものである。

#### 【0024】

(1) 包装袋内に充填封入された空気を抜くときは、粘着テープを剥離して空気放出部を開口し、包装袋を適宜に押圧することにより円滑容易に空気放出部

から空気を放出できるので、従来のように逆止弁を損傷することがなく、空気封入タイプの送品用緩衝性包装袋としての耐用命数を著しく向上できる。

【0025】

(2) 空気を確実に放出できるので、膨満した包装袋の嵩を十分に縮小し得て、使用済みの包装袋の整理、保管、その他の取扱いが非常に容易である。

【0026】

(3) 反復繰返して貼着、剥離可能な特性を有する粘着テープにより空気放出部を開閉自在に閉塞したので、包装袋が破れたり、逆止弁が損傷したりしない限り、空気の充填、放出を繰返しつゝ、包装袋を継続して永く使用できる。

【0027】

(4) 緩衝性が良好で、要緩衝物品を安全に送配できることは勿論のこと、包装袋の表面が可筆記性シートで構成されているので、どのような筆記具を用いても、送品の差出人、受取人の住所、氏名、その他の必要事項を外袋の表面に記入でき、送品用の緩衝性包装袋として最適である。

【0028】

(5) 所要の物品を収納部に収納した後に、挿脱口に設けた覆閉片を内側に折曲げて口縁に当接すれば、該覆閉片の内表面に設けた接着剤層により貼着され、挿脱口を確実に覆閉して収納物品の逸出を確実に防止できる。